八戸レポート 11月号

平成28年10月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項 目
1	“町内会離れに歯止めを” 八戸市が担い手育成へ初講座開催
2	八戸ブックセンター １２月４日オープン
3	八戸市、１月４日に中核市移行式を開催
4	三セク、八工大、八戸市が産学官連携で覚書調印 ～まちづくりに学生の力を～
5	屋内スケート場起工式行われる ２０１９年秋の供用を目標

【産業】

No.	項 目
6	八戸の水産品、地酒 ロサンゼルスでプロモーション
7	八戸ワイン 「シャルドネ」「メルロー」の２品種が有望

【地域】

No.	項 目
8	島守地区住民によるプロジェクト着手 ～島守弁の事典を作ろう～
9	鮫角灯台 初めて「夜の一般無料開放」
10	蕪嶋神社新社殿再建 １１月２日着工へ
11	～うま味ぎゅっと凝縮～ 煮干しづくり最盛期
12	八戸に待望の「障がい者就労レストラン」開店
13	八戸高校に初の女子応援団長 誕生！
14	八戸の魅力ぎっしり 八商高生発案の駅弁２種発売
15	田面木小で認知症サポーター養成講座開催

【文化・スポーツ】

No.	項 目
16	ダイハツスタジアム ヴァンラーレ八戸戦でこけら落とし
17	根城南部氏の歴史を絵本に 『根城の歴史』博物館で販売
18	サッカー元日本代表と八戸選抜がダイハツスタジアムで夢の一戦
19	伊調馨選手に国民栄誉賞授与
20	ヴァンラーレ八戸 J３昇格ならず
21	はちのへ菊まつり開催 ～流麗な奥州菊 魅了～
22	劇団四季「ウエストサイド物語」 八戸で７年ぶりに公演
23	東南アジアの学生ら 「はっち」で南部裂織の制作など見学

【行政】

記事	概要
（1）	**“町内会離れに歯止めを”　八戸市が担い手育成へ初講座開催** 町内会の担い手を育成しようと、八戸市は16日、市庁で「地域コミュニティ人材育成アカデミー」を初めて開催した。参加者は町内会活動未経験の若者や、現役役員らさまざま。初日は20～70代の約50人が、町内会を取り巻く現状や、運営管理を見直す必要性に理解を深めた。市内の町内会加入率は、2005年に64.1%だったが、2015年度には56.8%まで減少しており、“町内会離れ”に歯止めをかけようと企画した。
（2）	**八戸ブックセンター　１２月４日オープン** 八戸市は、六日町の複合ビル「ガーデンテラス」内に整備を進めている「八戸ブックセンター」を12月4日にオープンすると発表した。大人を主な利用者層として想定しており、提案型・編集型の書棚を配置し、一般書店では手に入りにくい専門書などを陳列・販売。ドリンクも楽しめる読書席やギャラリー、読書会ルーム、執筆空間「カンヅメブース」などを設ける。陳列冊数は8千～1万冊を予定。開館時間は午前11時から午後8時までで、毎週火曜（祝日除く）と年末年始は休館。
（3）	**八戸市、１月４日に中核市移行式を開催** 小林眞市長は21日の定例記者会見で、来年1月4日に中核市移行式と連携中枢都市宣言を行うと発表した。移行式は新年の仕事始めとなる1月4日に午前9時半から11時まで市公会堂で開催し、市長が式辞を述べ、祝いのくす玉を割る。閉式後、引き続き市長が連携中枢都市を宣言する予定。連携協約の締結や都市圏ビジョンの策定など一連の手続きを経て、来年３月の形成実現を目指す。
（4）	**三セク、八工大、八戸市が産学官連携で覚書調印　～まちづくりに学生の力を～** 八戸市と八戸工業大、市や八戸商工会議所などが出資した第三セクターの「まちづくり八戸」は10月21日、市中心街の活性化に向けた課題の解決に向け、産学官で連携して取り組む方針を表明した。大学生の感性や意見を取り入れながらハード、ソフト両面の事業を進め、若い世代の人材育成にもつなげる考え。3者は本年度、事業の第1弾として、三日町と六日町のほぼ中間に位置する「花小路」の整備を進める。
（5）	**屋内スケート場起工式行われる　２０１９年秋の供用を目標** 八戸市が整備を進める屋内スケート場の起工式が23日、建設予定地の長根公園で行われた。式には市や県、工事関係者のほか、日本スケート連盟の橋本聖子会長ら約60人が出席した。神前に玉串をささげるなどして、工事の安全を祈願した。屋内スケート場は、国際大会の開催が可能な400メートルトラックを備えた日本で3カ所目のリンクとなる。2019年秋の供用開始を目指す。

【産業】

記事	概要
（6）	**八戸の水産品、地酒　ロサンゼルスでプロモーション** 米国ロサンゼルス市を中心とした地域での販路拡大に向け、八戸市は現地時間の10月5日、在ロサンゼルス日本国総領事公邸で「八戸の水産品と地酒の夕べ」と銘打ったプロモーションを開催した。米国人向けに工夫した創作料理の試食会などを通し、八戸の水産品や地酒などの魅力をアピールした。イベントには招待したレストラン関係者や輸入業者、報道関係者ら約90人が参加した。また、7日にはロサンゼルス近郊の日系スーパーで開かれている物産展「AOMORIフェア」で小林眞市長がトップセールスを行い、ホタテ、県産だしのみそ汁、リンゴ商品などの試食品を来店客に振る舞い、PRした。

（７）	**八戸ワイン 「シャルドネ」「メルロー」の２品種が有望** ワイン産業の創出を目指す八戸市は、南郷地区で試験栽培しているワイン用ブドウ品種の生育状況を踏まえ、シャルドネとメルローの2品種が有望との認識を示した。2014年度に定植し今秋初収穫を迎えた8品種の糖度は、シャルドネが19.4%と目標(18%)を上回り、マスカットベリーA(16.9%)、メルロー(16.6%)なども目標近くに達した。市農業経営振興センターの関係者は「各品種とも成育はおおむね順調。中でも糖度の乗りが良くワイン用需要も高いシャルドネ、メルローは品種選定する上で有望になるのでは」と話している。

【地域】

記事	概要
（８）	**島守地区住民によるプロジェクト着手　～島守弁の事典を作ろう～** 南郷島守地区の住民が、地域固有の方言や昔話、歴史を「島守弁ミニ事典」としてまとめる取り組みをスタートさせた。事業は2カ年で、本年度は定期的に会合を開いて計画を固めるほか、方言や昔話、地名の由来といった素材の収集も並行して進める。小中学生にも参加してもらい、世代間交流や郷土愛の醸成にもつなげたい考え。島守弁は音声でも録音し、来年度は本格的に事典の製作に入る。地域の課題解決に向けた機運を高めようと、八戸市が2015年度に始めた「『地域の底力』実践プロジェクト」の一環で実施する。
（９）	**鮫角灯台　初めて「夜の一般無料開放」** 鮫町の鮫角灯台で16日、「夜の一般無料開放」が行われ、来場者が灯台下や展望台から満月を眺め、種差の夜景を楽しんだ。同灯台では2013年に種差海岸が三陸復興国立公園に指定されたことを受け、毎年期間限定で日中に一般公開をしているが、夕方以降は初めて。詩人の草野心平氏が「ザボンの月」と表現した種差の月を、多くの人に見てほしいとの思いで開催に至った。
（１０）	**蕪嶋神社新社殿再建　１１月２日着工へ** 昨年11月の火災で焼失した蕪嶋神社の社殿の再建について、神社再建実行委員会は、木造2階建てとする新社殿の完成イメージ図を含む事業計画の詳細を発表した。11月2日に基礎工事に着手し、2019年12月の完成を目指す。一般開放は2020年3月からとし、完成後もそれまでは頂上への立ち入りを禁止する。新社殿の延べ床面積は、約480平方メートルと焼失前から増加し、建物の高さは2メートルほど高くなる。1階は休憩所とし、2階にご神体を収める本殿と、参拝のための拝殿を置く。外構工事を含めた総工費は5億円。
（１１）	**～うま味ぎゅっと凝縮～　煮干しづくり最盛期** 秋の深まりとともに八戸港でセグロイワシの水揚げが本格化し、八戸市内の水産工場では煮干しづくりが最盛期を迎えている。天日干しによる煮干しづくりは、寒暖の差が大きくなる今の時期が最適という。3～4日かけてうま味を凝縮させてゆく。魚体に脂が乗ってくると煮干しには不向きのため、10月いっぱいが書き入れ時。関係者は「今年も良い煮干しができている。だしに良し、そのまま食べてもよし。八戸産の煮干しを多くの人に使ってほしい」と話している。
（１２）	**八戸に待望の「障がい者就労レストラン」開店** 障がいのある人が充実感を持って働く場をつくろうと、八戸市の社会福祉法人「豊寿会」は10月21日、妙坂中にレストランをオープンした。レストラン「spread」（スプレッド）は木のぬくもりが感じられる明るい空間で、市内の元シェフが手掛けるフレンチの肉・魚料理、カレーライスなどを味わえる。同法人の施設を利用する人の特性に合った仕事を任せ、働く喜びや自信を感じられる場所づくりを目指す。

（１３）	**八戸高校に初の女子応援団長 誕生！** バンカラで知られる八戸高校応援団に、同高校史上初とみられる女子の団長が誕生した。着古してほつれや裂け目のある羽織をさっそうと着こなすのは、団でただ一人の2年生、大和史織（やまと・しおり）さん。大和さんは9月、全校生徒による信任投票で団長に就任。空手部と掛け持ちしながら、男子2人、女子2人の1年生を率い、同高校野球部の試合などでエールを送っている。
（１４）	**八戸の魅力ぎっしり　八商高生発案の駅弁２種発売** 八戸商業高の生徒が発案した、八戸の魅力をアピールする駅弁2種が10月24日から、八戸駅構内在来線改札横の駅弁コーナーで販売される。商品開発に携わったのは3年生5人で、同高の必修授業「課題研究」の一環として取り組んだ。老舗弁当店・吉田屋に協力を依頼し、半年かけてメニューやパッケージを考えた。イカをふんだんに使った「いっぱい弁当」（税込み1300円）と、種差海岸に咲く花をイメージしてウニ、イクラ、サバなどの海産物をあしらった「種差海岸弁当」（税込み950円）を完成させた。
（１５）	**田面木小で認知症サポーター養成講座開催** 八戸市内で高齢者・障がい者事業所を運営する「こころすこやか財団」が10月20日、田面木小学校で、小学生向けの認知症サポーター養成講座を開いた。田面木地区は2008年度から、認知症患者の徘徊を想定した地域住民らによる声かけ訓練を行うなど、認知症患者が安心して暮らせる地域づくりを進めており、13年度からはこの取り組みをさらに広げようと、同小で養成講座を行っている。これまで約180人の児童が講座を受け、サポーターとなっている。参加した児童は「認知症がどういうものか分かった。認知症の人を見たら優しく接してあげたいと思った」と話している。

【文化・スポーツ】

記事	概要
（１６）	**ダイハツスタジアム　ヴァンラーレ八戸戦でこけら落とし** 八戸市が建設した多賀多目的運動場の天然芝球技場「ダイハツスタジアム」で10月2日、こけら落としとして日本フットボールリーグ（JFL）の公式戦「ヴァンラーレ八戸ーMIOびわこ滋賀」が行われた。この日はヴァンラーレのホーム戦史上最多の5028人が訪れた。ヴァンラーレは0ー2で敗れ、新スタジアムでの白星は次節以降に持ち越されたが、間近で繰り広げられる熱いプレーにスタンドを埋め尽くしたサポーターは大きな声援を送った。
（１７）	**根城南部氏の歴史を絵本に　『根城の歴史』博物館で販売** 八戸市の根城を拠点に戦乱の時代を生き抜いた根城南部氏の歴史を子どもにも知ってもらおうと、同市博物館は、同氏の歴史を分かりやすくまとめた絵本『根城の歴史』を制作した。八戸へやって来た南部師行が根城を築城した南北朝時代から、江戸時代に根城南部氏が遠野に移るまでの300年を、易しい言葉でつづっている。戦争が続く時代だが、3色のパステルで描いた絵は温かみがあり、子どもにも読みやすくなっている。一部500円（税込み）で、同館で購入できる。
（１８）	**サッカー元日本代表と八戸選抜がダイハツスタジアムで夢の一戦** サッカーの日本代表OBを招いたイベント「ドリームサッカーinはちのへ」が10月16日、多賀多目的運動場内のダイハツスタジアムで開かれた。10月1日に供用を開始した同運動場の完成記念事業の一環で、ラモス瑠偉さんら元日本代表22人による「ドリーム・チーム」と、市内の20～50代の選手で編成した同市選抜が対戦。会場には市民ら約4千人が詰め掛け、憧れの名選手たちがプレーする夢の一戦に歓声を上げた。

（１９）	**伊調馨選手に国民栄誉賞授与** リオデジャネイロ五輪レスリング女子58キロ級で金メダルを獲得し、五輪の女子個人種目で史上初の4連覇を達成した伊調馨選手に10月20日、国民栄誉賞が授与された。安倍首相が表彰状と盾、記念品を贈り、歴史的な偉業と国民に感動を与えた功績をたたえた。着物姿で晴れの舞台に臨んだ伊調選手。栄誉ある賞に緊張もうかがえたが、表彰状などを受け取ると、やっと表情を崩した。国民栄誉賞は伊調選手で24例目。青森県では初めての受賞者で、レスリング界では2012年に受賞した吉田沙保里選手以来となる。
（２０）	**ヴァンラーレ八戸　J３昇格ならず** 日本フットボールリーグ（JFL）のヴァンラーレ八戸は第2ステージ第12節の23日、八戸市のホーム・ダイハツスタジアムでホンダFCと対戦。引き分けに終わり、3試合を残して年間5位以下が確定した。J3昇格の条件の一つである「年間順位4位以内」を満たせず、来季も再び目標に掲げるプロリーグ入りに挑む。
（２１）	**はちのへ菊まつり開催　～流麗な奥州菊　魅了～** 八戸市の花・菊に親しむ「第45回はちのへ菊まつり」が10月28日～11月3日まで、市庁前市民広場で開催された。花びらの中央部が盛り上がり、外側はすらりと伸びた流麗な奥州菊720鉢が来場者の目を楽しませた。会場には菊盆栽のほか、蕪嶋神社の早期復興の願いを込め、神社ゆかりの水の神「市杵嶋姫命（いちきしまひめみこと）」をテーマにした菊人形も飾られた。「今年は夏の日照りや9月ごろの長雨など栽培が難しい天候が続いたが、悪天候のわりには立派で素晴らしい花がそろった」と関係者は話していた。
（２２）	**劇団四季「ウエストサイド物語」　八戸で７年ぶりに公演** 劇団四季によるミュージカル「ウェストサイド物語」の八戸公演が10月28日、八戸市公会堂で開かれた。八戸では2009年以来、7年ぶりの公演。出演者はドラマチックな音楽に乗せ、力強い歌声や躍動感あふれるダンスを披露。運命に翻弄される若者の物語を、熱のこもった演技で届けた。日本最高峰の劇団による迫力のステージが、会場に詰め掛けた約1600人を魅了し、カーテンコールでは、客席から割れんばかりの拍手が送られた。
（２３）	**東南アジアの学生ら「はっち」で南部裂織の制作など見学** 日本に興味を持つラオス、ミャンマー、フィリピン、東ティモールの大学生と社会人約100人が10月26～31日の日程で南部町と八戸市を中心とした南部地域に滞在し、ホームスティをしながら地元の文化を体験した。一行は28日に八戸市の「はっち」を訪問。起業家やものづくりへの支援におけるはっちの役割などについて講義を受けた。その後は、館内を回り、南部裂織の制作を見学。参加者は興味深そうに見つめていた。日本政府の対日理解促進交流事業「JENESYS（ジェネシス）2016」の一環。日本への理解を深め、帰国後に魅力を発信してもらうことを目的として実施している。

平成２８年１１月

各　位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成２８年１１月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださるようお願いいたします。

このたび、八戸三社大祭の山車行事が、ユネスコ無形文化遺産登録の「山・鉾・屋台行事」に記載されることが勧告されました。１１月２８日から１２月２日に、エチオピアのアディスアベバで開催される政府間委員会で審査され、最終決定されます。登録されると、青森県内では初めてとなります。

また、先月２３日、屋内スケート場の２０１９年の供用開始を目指し、起工式が行われました。完成すると、国際大会を開催できる日本で３ヶ所目のスケートリンク場となります。

そして、来月４日には、「八戸ブックセンター」もオープンする予定です。「本のまち八戸」の取り組みである、赤ちゃんを対象にした「ブックスタート」、小学生を対象にした「マイブッククーポン」に続き、「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」「本でまちを盛り上げる」中心拠点として、多くの方に利用していただける施設になることを願っています。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館５階

電話　(03) 3261-8973／FAX　(03) 3239-6723

E-mail:　tokyo@city.hachinohe.aomori.jp